

【foR-Aプロジェクト】 「二層の対流」を創出する「小さな交通」のデザイン (経済経営学類 准教授 吉田 樹(研究代表者))

本プロジェクトは、人口減少下の地域経済に求められる、生活と交流による「二層の対流」を創出するツールとして「小さな交通」に着目し、実践的なアプローチに基づき、その計画手法の構築を目指す。

プロジェクトの背景

- ◆ 人口減少社会の地域経済では、生活機能の維持による地域内の対流とともに、交流による地域内外の対流(→「二層の対流」)を促進することが求められる。
- ◆ こうしたなか、原発被災地では「行きたい場所が少なくなった」と感じる市民が多く、高齢者の外出意欲の低下が顕著となり、外出頻度も減少するなかで「二層の対流」が弱まっている状況。(右表)
- ◆ 地域の「軸」となる公共交通(地域鉄道、都市間バスなど)の一方で、①地域内の「ラスト・ワンマイル」を支える移動手段(→「小さな交通」；コミュニティバス、タクシーや自家用車、小型モビリティを活用した交通システム)が未整備であるうえ、②目的地自体の復旧も進んでいないことが背景にある。
- ◆ そこで「小さな交通」を確保することで、日常生活に欠かせない諸活動へのアクセシビリティを確保するとともに、「おでかけ」(交流)の機会をつくりだす取り組みと連携させることが重要になる。
- ◆ こうした課題は、多くの地方都市や小規模自治体が抱えており、学術的にも未成熟な「小さな交通」の計画手法を示す意義は大きい。

年齢層	行きたい場所が少なくなった		外出がおっくうになった	
	南相馬	山形市	南相馬	山形市
35～44歳	40.9%	5.3%	12.9%	8.0%
45～54歳	41.1%	25.8%	24.0%	22.6%
55～64歳	38.5%	11.1%	28.0%	16.2%
65～74歳	41.1%	16.2%	28.0%	13.1%
75～歳	41.0%	26.1%	41.7%	30.4%
	(n=1,473)	(n=530)	(n=1,473)	(n=530)

年齢層	外出頻度が減少した		自家用車を運転するようになった	
	南相馬	山形市	南相馬	山形市
35～44歳	18.3%	10.7%	11.8%	13.3%
45～54歳	34.2%	26.9%	10.3%	10.8%
55～64歳	33.0%	28.2%	15.7%	7.7%
65～74歳	41.3%	30.0%	14.6%	9.2%
75～歳	54.3%	48.7%	12.8%	3.5%
	(n=1,473)	(n=530)	(n=1,473)	(n=530)

0.0% p<0.05 0.0% p<0.01

両市の比較は、原発被災地の特徴として捉えられるとともに、都市規模の違いにも起因していると考えられる。しかし、震災・原発事故で高齢化が加速する市町村の多くは小規模自治体であり、南相馬市と同様に中・高齢層の外出意欲が低下し、地域内の交流機会が失われる懸念がある。

プロジェクトのねらい

1. 「小さな交通」システムのフィージビリティを実証的に検討
2. 「小さな交通」による交流機会創出の可能性を実証分析
3. 「小さな交通」の計画要件をインベントリ(目録)として整理

「小さな交通」システム検討チーム

- ◆ 国内の「小さな交通」に関わる事例調査などに基づき「小さな交通」がカバーする生活交通の特性を示す。
- ◆ アクセシビリティが低い地域において、運賃事前算定(定額制等)により、地域住民の自発的な相乗り(シェアリング)を促すタクシーを活用した「小さな交通」の実証実験を行う。「くらしの足」としてのタクシーの選択性とアクセシビリティ向上の可能性を明らかにする。



「小さな交通」による交流機会創出チーム

- ◆ 会津若松市内の「まちなか周遊バス」を対象とする新たな企画乗車券(吉田ゼミ+会津バスが検討中)をケーススタディに、購入者の回遊状況や消費行動を計測して「小さな交通」が地域内外の対流創出に寄与する可能性を示す。
- ◆ 観光客の行動分析にICT関連企業と連携したデータの活用と可視化を目指す。(例：観光ポテンシャルマップの作成)



学術への貢献

- 土木学会、日本福祉のまちづくり学会等への成果発信と研究者間での討議

地域への貢献

- 地域交通政策への貢献
- 国交省、復興庁等への提言
- PBL人材の地域への循環

「二層の対流」を創出する「小さな交通」のデザインに求められる要件をインベントリ(目録)に整理

「小さな交通」システム検討チーム

- 県内タクシー会社
- 南相馬、福島、会津若松各市の地域公共交通会議等

「小さな交通」による交流機会創出チーム

- 会津乗合自動車株式会社
- 会津若松市地域づくり課はじめ地元団体
- ICT関連企業

経済経営学類 吉田研究室のシーズ
経済経営学類 吉田ゼミにおける
PBL(Project Based Learning)

期待される成果

- ◆ 成果をインベントリ(目録)に整理し、学術のみならず地域や実務への貢献も重視。
- ◆ 学生教育(PBL(Project Based Learning))との連携で、地域への人材循環を目指す。